

令和元年 12 月に、中国武漢市で新型コロナウイルス関連肺炎の発生が報告され 1 年。このパンデミックが始まってからというもの、人類は見えない敵におびえ、パニックとなり、フェイク情報に踊らされ、マスコミをはじめ政府も、また最も冷静であるべき私たち医療関係者までが、今も右往左往しています。今こそ、「正しく恐れる」ための知識と思考法が必要でしょう。

新型コロナウイルスについては謎の部分もまだまだありますが、現時点でわかってきた事実の積み上げにより具体的な対策も見えてきました。その有効な対策のカギとなる「知恵」として、私たち歯科医師が日ごろから実践している院内感染対策にヒントがあるのではないのでしょうか。

「歯科は感染暴露の最前線にあるのにクラスター化していない」「歯科医院に定期的に通うヒトはインフルエンザにかかりにくい、また肺炎が重症化しにくい」という事実について、どう解釈すればいいのか？私たちの知見は新型コロナウイルス感染症対策に応用できないのか？

「口は生体の入り口である」という当たり前の事実をもう一度見直し、効果的かつコストパフォーマンスに優れた感染対策について、さらには歯科が口腔経由のウイルス感染症に対して貢献する「守りから攻めに転じるヒント」をご教授いただきます。